

2020年11月23・30日合併号 金属産業新聞(3面)に掲載されました



受賞者の山本浩二氏

同社は異なる素材の金属を接合させる工法の研究により「AKROSE (アクロゾ)」の開発に成功して、2018年11月より販売を開始していた。自動車業界を中心に軽量化や高強度化を目的にした異種金属材料などを組み合わせたマルチマテリアル技術が注目されている中で、溶接や冶金、接着剤などの化学的

接合ではない新しい金属接合技術として「AKROSE」の販売展開を進めている。今回、「AKROSE」を様々な産業で認知を高めて、ものづくりの発展に貢献することを目的に「素形材産業技術賞」に応募。これにより一般財団法人素形材センター会長賞を受賞した。開発技術名は「冷間圧造技術を用いた異種金属接合技術の開発と応用」。開発代表者は同社フラスナー事業部技術部長の山本浩二氏、共同開発者は同技術開発課の事務局和氏。同賞は過去5年間に開発され、ある程度の実用化や実績がある素形材産業技術の開発者を対象に

日東精工(株)(京都府綾部市、材本吉社長)は、冷間圧造技術を用いた異種金属接合技術「AKROSE」の開発において、第26回素形材産業技術賞の一般財団法人素形材センター会長賞を受賞した。

日東精工 「素形材センター会長賞」に

異種金属の接合技術 「AKROSE」で

アルミニウム+鉄+銅の接合の一例



表彰されるもの。「AKROSE」は強度が優れているほか、素材形状を調整することで複雑な接合形状も実現する。特長として①密着性の高い強固な接合②冷間圧造の多種材料(鉄、ステンレス、銅、アルミニウム等)の接合③優先項目次第で最適な接合を選択(接合形状、接合強度、コスト等)が挙げられる。今年10月には、「AKROSE」で接合した部品に材料に適した条件で熱処理を加えることで、接合界面の密着性を原子レベルにまで向上させた進化版の「AKROSE HYBRID」も「AKROSE」技術

販売開始している。なお今年11月9日から12月11日の期間中に経済産業省のオンラインホールにおいて、同製品や動画が展示される。